

韓国：釜山での研究調査・交流を行いました。

「近現代日本における皇室と災害支援事業に関する基礎的研究」（代表・新田均教授）の研究資料調査・研究交流のため、平成 28 年 8 月 31 日（水）より 9 月 2 日（金）まで 2 泊 3 日で大韓民国釜山広域市を訪問しました。本研究は、平成 28 年度より皇學館大学研究開発推進センターのプロジェクト研究として位置づけられています。

日本からの訪問メンバーは、櫻井治男（皇學館大学文学部特別教授）・井上兼一（同教育学部准教授）・遠藤慶太（同研究開発推進センター准教授）・宮城洋一郎（種智院大学人文学部教授）・冬月律（麗澤大学・モラロジー研究所所員）・金田伊代（京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程）の 6 名です。

8 月 31 日（水）は、それぞれ成田国際空港・関西国際空港・中部国際空港から出発し、韓国の金海国際空港で合流しました。空港では東義大学校の研究メンバーに迎えていただき、宿となる東横イン西面まで自動車で移動しました。夕刻の洛東江は風情がありますが、釜山市街まで入る道路は渋滞です。到着の後、金仁鎬教授主催による歓迎の夕食会となり、さらに韓国の伝統茶をごちそうになりました。



金海国際空港到着ロビーにて



韓国の伝統茶

9 月 1 日（木）は、東義大学校伽耶キャンパス（釜山鎮区伽倻 洞山）を訪問し、人文学部セミナー室で日本・韓国双方の研究概要・メンバーの自己紹介ののち、意見交換を行いました。韓国側の出席者は金仁鎬（東義大学校教授）・李俊英（Lee Jun Young 大学院博士課程）・鮮于性恵（Sun Woo Sung-hey・大学院博士課程）・金예슬(Kim Ye seul 大学院博士課程)・李用浩（Lee Yong ho 大学院修士課程）の 5 名、加えて金教授の要請で高橋正憲氏（新羅大学校助教授）に通訳として支援いただきました。

東義大学校は 9 学部を擁する規模の大きな私立大学で、釜山市釜山鎮区に緑豊かで広大なキャンパスがあります。用意してくださったおいしい昼食をいただいた後、校内を案内してもらい、大学から程近いところにある曹溪宗の安国寺を訪問、韓国の仏教文化の一端に触れることができました。いずれも金教授のご配慮によるものです。

午後は釜山広域市立市民図書館（釜山鎮区草邑洞）を訪れ、館長の張元圭先生を表敬訪問、櫻井先生から研究の趣旨を伝えました。その後、所蔵されている植民地時代の日本語文献の調査を行いました。じつはこの市民図書館は日本弘道会釜山支部によって明治34年（1901）に設立された図書館を淵源としており、図書・雑誌などの日本語文献を所蔵しています。朝鮮社会事業協会の資料や『釜山日報』・『朝鮮日報』などの閲覧・撮影を行い、有意義な調査となりました。

同日夕刻には櫻井先生主催で日本側から答礼の夕食会を開催しました。今後の研究交流から日本・韓国いずれも変らぬ研究者の悩みなど話題がはずみ、夜の更けるまで懇親を深めました。



東義大学校にて



釜山広域市立市民図書館での調査

9月2日（金）は、ホテルのロビーで今回の釜山訪問や今後の研究事業について打ち合わせを行い、ニュース・レター作成について分担の取り決めをしました。その後、それぞれ中部国際空港・成田国際空港・関西国際空港・福岡空港へと帰路につき、意義深い訪問調査をしめくりました。

今回の釜山調査・交流の詳細については、平成28年9月末に皇學館研究開発推進センターで『近現代における皇室と福祉事業に関する研究会』ニュース・レター第3号として公開予定です。これまでのニュース・レターとあわせて、ぜひご覧ください。

（遠藤慶太）